IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム 第41回会合 発言録

2023年10月30日

【加藤】 皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、41回目の活発化チームの会合を開催したいと思います。

いよいよ2023年京都会議が終わった後の2023年に向けた活発化チーム会合、京都の後の第1回ということで、今日はよろしくお願いいたしたいと思います。

アジェンダに沿って進めますけれども、まず、総務省の岡崎さんのお名前を拝見したんですが、大変お疲れさまでございました。すばらしい会議を開催していただいて、いろいろ苦労話も含めて御報告いただければと思います。よろしくお願いします。

【岡崎】 ありがとうございます。総務省の岡崎でございます。

冒頭、改めまして、皆様、IGFに御参加、御協力いただきましてありがとうございました。国連からも発表が既にあったように、現地参加が史上最多で6,279人、総務省のホームページでも報道発表しておりますけれども6,279人で、オンラインは同時接続が多いときには少なくとも3,000以上あったということで、正確には頭数を数えられないので3,000以上ということで参加者9,279人以上という形になっております。繰り返しになりますけど、現地参加者数が史上最多となったということで、12日、終わった後に総務省の事務局と、ジュネーブにありますチェンゲタイ以下、ジュネーブの事務局とで打ち上げみたいなことやったんですけども、口々に過去のIGFの中でも最高の成功だったということで、高い評価を得たところでございます。

政府の視点からの御報告ということですと、主な参加者にありますとおり、無事、岸田総理大臣にも対面、その場で御出席いただきまして開会のオープニングスピーチと、あとはAI特別セッションのキーノートスピーチという2本のスピーチを発していただきまして、ホスト国の首脳自らのメッセージ、一つは自由でオープンなインターネットガバナンスの大事さ、もう一つは国際的な生成AIに関するルールづくりを日本として牽引していくと、皆様と議論しながらよいものをつくっていくということを力強く発信いただいたところでございます。

その他、私が個人的に当初思っていたよりもかなり対面で多くの参加をいただきまして、総務省関係だけでも政務三役、鈴木総務大臣、渡辺総務副大臣、小森総務大臣政務官、あとは河野デジタル大臣、あと、もう今は替わってしまいましたけど衆議院の総務委員長の浮島智子先生も、当初はビデオメッセージという話だったんですけれども時間をつくっていただいて駆けつけて、その場でスピーチをいただいたということで、参加されたVIPの方々からも、まず会場がまるで日本じゃないみたいだと、ありとあらゆる見た目の人種、髪の色、目の色、姿形もそうですし、服装もそうですし、言葉もそうですし、英語でしゃべっている人が多いとはいえたくさんの言語、宗教がきっちりと平穏に入り交じったすばらしい空間であったということでした。

あと、皆様に宣伝いただいたというか、周知いただいた成果だと思うんですけれども、特に平日に入ってから、10日以降に高校生ぐらいかなと思うような人、あとは大学生ぐらいかなと思うような人たちが少人数の集団で入ってきて、うろうろしているという日本人の小集団をかなり多数見ました。それは大変にすばらしくてありがたいことで、日本にいると、国際色豊かという言葉もちょっと時代遅れかもしれないですけど、ああいう空間に接することがないと思いますので、少しだけでも足を運んでいただいて、「ああ、これが国際場裡というものなのか」ということで少しでも刺激を受けていただいて、将来そういう所に足を運んでいただく、長い目で見たきっかけになればなと思っております。

本日、私が政府からということで話をさせていただいておりますけれども、本来であれば飯田が話すべき場所であることは本人も重々承知した上なんですけども、ほかの業務が重なってしまってどうしても本日は出られなかったということで、私が代わりましておわびを申し上げます。

AIに関しては特に力を入れたところでございますけれども、AIの特別セッションということで岸田総理大臣、鈴木総務大臣含め国際機関、あと民間のGoogleとMetaのグローバルのプレジデントも直接出席いただいて御議論いただくことができたということで、今後ますます重要になってくるであろう生成AIの議論に大きなインプットができたかなと、総務省としても、日本国政府としても考えているところでございます。

あと、細々話を始めると切りがなくて皆様のお時間を奪ってしまいますので、一旦ここで私の話は止めさせていただきたいと思いますけれども、現地で御参加いただいた方がたくさんいらっしゃるかと思うんですが、本日の参加者のリストを見ても、私が直接御挨拶できた方というのが本当に片手で数えるぐらいしかいなくて、私、事務局の職員としてほぼ事務室で何かパタパタやっているか、メインホールの進行管理とかトラブルシューティングもやっていたので、メインホールと事務局の間をうろうろしながら、時々隙を見て展示に行ったら、そこにいらっしゃった方に御挨拶をしたりということはできたんですけれども、申し訳ないんですけども現地にいらっしゃった方にほとんど御挨拶もできずに、お会いすることができなかったことをこの場でおわびを申し上げたいと思います。

すみません、長くなってしまいましたが私からの話は以上とさせていただきます。改めまして、ありがとうございました。

【加藤】 岡崎さん、ありがとうございました。今日またお忙しい中、御参加いただきましてありがとうございます。本当にすばらしい会を催していただいて、お疲れさまでございました。

この機会に皆様、後で京都の振り返りというアジェンダもございますけれども、岡崎様は今日は30分ぐらいですか、おいでいただけるのは。

【岡崎】 今のところ30分ぐらいの予定をしているんですけど、もしかすると呼出しがかかるかもしれませんが、かからない限りは（17時）半ぐらいまでいられるので。

【加藤】 ありがとうございます。

岡崎様にこの場で御質問とかお礼とか、ぜひ皆さん、せっかくの機会ですからよろしくお願いいたします。順不同で。

【前村】 前村でございます。せっかくの機会なので。

岡崎さん、どうもありがとうございました。

これは何人かの方にも申し上げて、また渡辺副大臣がいらっしゃったときには直接申し上げたんですが、「IGFはすごいよ、ありがとう」と言われるんです、私に。ちょっと試しに数えてみたんですけど、300人ぐらい私が知っている方が参加なさっていて、口々に「ありがとう」、「ありがとう」と言われて、「いや、でも、僕はホストじゃないからさ」というようなことを言って、「いや、そうはいってもこれは誇れる会議だよ」というようなことで、もう口々にそういうことを言われましたので、「これはそのまま大臣にお伝えしなければならないことですのでお渡します」と言って渡辺副大臣には申し上げたところでありました。ちょっと大げさに聞こえるかもしれないんですけども、本人は本当に本心から思っていまして、日本国民として誇れるIGFになったと思います。本当にありがとうございました。

【岡崎】 ありがとうございました。

【加藤】 ほかの方はいかがですか。直接感想なり、ぜひこの機会ですからお願いしたいと思います。何もないですか。

上村先生のお名前も拝見しましたが、いかがでしょうか。突然当てて恐縮ですけれども。上村先生、久しぶりに御参加いただいてというか、この活発化チームに。今はちょっとあれですか。

じゃあ、その間に……ああ、分かりました。マイクをつないでください、上村さん。

あと、初めてというか、あまりふだん御発言なさらない方も、ぜひこの機会にお願いしたいと思います。

【山崎】 山崎です。

【加藤】 お願いします。

【山崎】 今、書き込みがございましたので読み上げます。田中恵子さんから、「京都コンピュータ学院、京都情報大学院大学から1,000人規模の学生、日本人、留学生がIGF京都に現地参加させていただきました」と書かれておりまして、岡崎さんが感想でおっしゃっていた高校生なり大学生のグループのうちの幾ばくかというか、かなりの割合を占めると思うんですけども、地元京都から参加された学生さんである可能性があります。

【加藤】 ありがとうございます。田中先生には、後でぜひ京都情報大学院大学でのいろいろなイベントも含めて、もう一度まとめて御報告いただくようお願いしたいと思います。

上村先生はあれですから、立石さんはいかがですか。いつものメンバーで恐縮ですけれども。あと、高松さんも、過去のIGFに比べていかがだったでしょうか。

【立石】 立石です。本当に皆さん、ありがとうございました。

今、田中さんからあったように結構（京都情報）大学院（大学）とか京都コンピュータ学院の人が行っていたということと、確かに人数はすごかったなと思います。

あと、いろいろ我々の不手際もあったとは思うんですが、サイドイベントを幾つやったのかな、六つ、七つはやったんですけど、もう二度とやりたくないぐらいのぼろぼろですけど、来ていただいた方には皆さん、大変喜んでいただいて帰っていただけたかなとは、自画自賛なんですけど思っています。

印象的だったのは、前日だったかな、SIGというのをやって、Schools on Internet Governanceということで、日本で今年の春からポツポツと始めている状況なんですけど、ほかの国でこれをやっている方々からは一緒にやろうと、それから教材とかも含めてお手伝いしますよという話をいろいろなところから本当に言っていただいたので、今年は取りあえず月1ペースでやって、来年からどうするかということはまだ考えてないというか、考え始めたところなんですけど、そういうことも今後やっていければなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

【加藤】 ありがとうございます。Schools on Internet Governanceをスタートしていただいたということで若い人を含めて裾野を広げる活動、ぜひこの活発化チームに御参加の方々も講師になって代わる代わる、いろいろとそういう若い人のためにも貢献していただければと思います。

ほかの方はいかがでしょうか。

さっき高松さんと言ってしまいましたが、いかがだったですか、過去のIGFとも比べて。

【高松】 では、上村さんのマイクがつながるまでということで。

人数が多かったなといった部分はありましたけど、私が印象的だったのは、日本での開催になったということもあるかと思うんですけど、日本からの参加が思ったよりちゃんと会場でお見かけできてよかったなと思ったというのが一番の感想でした。

ブーズゾーンのほうへのお声がけの成果というか、そういったことがきっかけでお越しいただいた方もいらっしゃったのかもしれないんですけど、多分大学の先生方とかそういった人も含めて、ふだんのこの活発化チーム会合に特に参加されていないという方でもこのインターネットガバナンスフォーラムでのセッションだったのか、何だったのか、そちらのほうに関心を持ちになって京都に足を運んでくださった方が結構いらっしゃったのではないかなと思い、そういった方たちももっと日本の議論に巻き込めていけたらよいのになと思ったというのも、イベント自体の感想ではないですけど思ったというのが結構大きいポイントでした。

以上です。上村さんがもうつながっています。

【加藤】 上村さん、お願いします。

高松さん、ありがとうございました。

【上村】 すみません、上村です。御指名くださりまして、ありがとうございます。

私は、今回はもうほとんど見物人だったので、開催に御尽力なさった総務省の方や、この活発化チームの皆様には大変お疲れさまでございました。大変すばらしい会だったというのは私も同感です。

実は、とはいいながら、Day 0はあまり日本人の顔が見えないなと思って、これは大丈夫だろうかと思って、そんな感想をその場に居合わせた方にはぼそっと漏らしたりしたんですが、Day 1以降は非常に多くの現地参加もあって、大変誇らしい内容だったのではないかと思います。

その後、私の同僚から、その人が指導している学生が国連関係の仕事を将来したいと思っているんだけれども、どうしたらいいだろうというような雑談の話をされまして、だったらIGFのような場をそういう学生に紹介することができればよかったのではないかと後から気づいたりしましたが、先ほど岡崎さんの話にもありましたように、こういった国際会議が日本で開催されたということ自体が大変画期的なことだという印象を大変強く持ちました。

あと、個人的にはIGFの役割とかを考えるよい機会にもなり、今後の役割の変化をどう捉えるかを考えるいい機会にもなりましたので、個人的にも大変有益な場になったと思います。すみません、非常に個人的なリフレクションになってしまいましたけれども、そんなことを思いました。

それから、もう一点、史上最多の参加者だったというのが私にはちょっと実感が湧かなくて、というのは、会場が多分広かったからだと思うんですけれども、今までの会場であればもっと混雑していただろうと思いますが、そういう意味では非常にスムーズな運営だったのではないかと思いました。

以上です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございました。

西潟課長と望月課長補佐のお名前を拝見しておりますが、いかがでしょうか。せっかくの機会ですからぜひコメントいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【西潟】 遅参して申し訳なかったんですけど、何にコメントすればよかったでしょう。

【加藤】 コメントというのは、今、岡崎様から今回の京都について、こういうようにすばらしいというお褒めの言葉をいただいたというようなことで御報告いただいたんですが、同じように今回主催いただいて、こういう苦労話とか、こういうことがあったということも含めて何かコメントをいただければということで、順に皆さんから感想を述べていただいています。後でまた振り返りのセッションをやりますので、そこでは個別の突っ込んだお話も伺いますけど、まずは、岡崎さんが最初の30分ぐらいおいでになるということで、感謝のお言葉を含めて皆さんにお話しいただいているんですが、いかがでしょうか。

【西潟】 そういう意味では、私も実は先週ICANNに行っていたんですけど、IGFで見た顔がたくさん来ていまして、皆さんからお褒めの言葉しかもらっていません。

それから、上村さんがおっしゃった最高人数の話は、細かく言うと多分現地参加のレコードハイなんですよ、たしか6,200人で、3,600人のダブルスコアまでは行かなかったけどぐらいの。それに対して、混雑具合で言えばというのは上村さんに同感です。他方で、それを支えた岡崎さん

なり、私らは一部を除くとロジ部分はそこまで関与しなかったので、改めて岡崎さんのチームの皆さんに拍手。

あとは展示です。この会合に来ていらっしゃる方で、山崎さんや高松さんにはご尽力いただきました、お名前をお見かけする限り。IGF Villageの半分はデータ通信課のほうでやらせていただきまして、こちらのほうも、例えば漫画の海賊版問題とか、「展示見たよ。キャラクターがいたよね」みたいな話がICANNでできたりするぐらいここに来た人の認知はあったようなので、そういう意味では展示に御協力いただいた皆さんに改めてお礼を申し上げたいと思います。

ひとまず以上とさせていただきます。ありがとうございます。

【加藤】 どうもありがとうございました。

望月様はいかがですか。かぶるかもしれませんけれども、何か御苦労話も含めて。

【望月】 私は今の西潟課長から話があったIGF Villageを主に担当させていただきましたけれど、こちらも本当に皆様の御協力もあってすごく盛況であったということで、大変皆様に感謝したい、お礼申し上げさせていただければと思います。ありがとうございました。

【加藤】 どうもありがとうございました。

ほかの方々はいかがですか。ぜひ、こんなすばらしい印象を持ったとかコメントを、せっかくの機会ですからいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

もし今なければ、後でまたもう一度京都の振り返りということでもう少し突っ込んでお話しいただく機会もございますので、取りあえず岡崎様、ありがとうございました。

【岡崎】 ありがとうございました。

【加藤】 それでは、アジェンダに沿って、次にMAGからの報告ということで、河内さんはいらっしゃいますか。MAGという立場で何か、同時並行的にMAGのミーティングをやっていらしたようですけれども、そういうことも含めて何か御報告いただくことがあればよろしくお願いします。

【河内】 ありがとうございます。

MAGはいつもIGFの会議中に現地で会合があって、基本的にMAGの任期は3年ということになっているので、3年でもう今年で終わりの人と、それから新しく入ってくる人ですね、新しい人は現地参加してない人も、リモートでつながっている人も何人かいましたけれども、終わった方には何か修了証みたいな、中身をちゃんと見ていないので、私はもう1年やるのでもらってないので分からないのですが、多分MAGになったときもらったのが「あなたをMAGに任命します」みたいなことが書いてある紙だったので、それが無事終了しましたみたいなことが書いてあるんじゃないかと思うんですけど、その紙を終わった人がもらって、お疲れさまでしたということをやっていました。

それともう一つ、MAGのチェアが来られて、任期が2年ずつなんですけれども、しかもガバメントセクターとプライベートセクターと市民社会と順番に回しているらしくて、今年まではアメリカのマイクロソフト、もともとマイクロソフトのプライベートセクターからの人がMAGの

チェアをやっていたんですけど、その方が今年で終わりで、新しく今度はガバメントセクターの順番ということで、バハマ政府の女性なんですけど…という女性がなりました。バハマ政府のMinistry of Economic Affairsと書いてあるので経済省みたい感じですかね、そこの方がなりました。多分閉会式とかにも登壇というか上に上がっていたと思うので、御覧になっている方も多いかと思います。

あとは、別途リーダーシップパネルと意見交換等を、何回目かになるんですけどしています。

あとは、先ほど皆さんがおっしゃっていましたけど、MAGから出た意見として、皆さん二、三年、初めての人ではなくて何回か出たことのある人たちが、特に去年、私は去年行っていないので分からないんですけれども、去年は結構通信機器ですね、ビデオとか、Wi-Fiでつなぐ回線ネットワークとかそういうところの結構不具合というか、あまりちゃんとつながらなかったり、音が出なかったりとかそういうことが結構あったみたいですけれども、今年はそういうのが全くなくて、さすが日本はすばらしいというように皆さんが言っていました。

そんな感じです。以上です。

【加藤】 河内さん、ありがとうございました。

皆さん、河内さんへ、MAGへの御質問はございますか。特にないでしょうか。

では、もう一年河内さんはMAGを継続ということで、次回はいつ頃にMAGの会議があるとか……。

【河内】 例年の予定だと1月中旬ぐらいに、まずイントロダクションというか、MAGが初めてになる1年目の方もいるので、MAGってこういうことで、こういうことをやっているという、そういう決まったことというか、MAGを紹介するようなリモートの会議が多分1月中旬ぐらいにあったと思います。恐らくリモートの会議は1月から2月にかけて1回か2回かあると思うんです。その後、物理的な会議が2月末から3月初めぐらいに恐らくあるのではないかと思います。例年だとそれくらいのタイミングで行われています。

【加藤】 ありがとうございます。御質問はよろしいですか。

もしなければ、引き続き、もう一度アジェンダに沿った、もう少し京都会議に関連してサブスタンティブな情報交換もさせていただきたいと思います。このアジェンダ項目も振り返りということですので、こういうことがあったというようなことをもう少し先ほどのお話に追加していただくことでも結構ですが、まず、先ほど立石さんのほうから京都情報大学院大学でいろいろな活動していただいたというお話がありまして、田中先生、もう少し詳しくこの御報告をいただけますでしょうか。資料も準備していただいていますので、よろしくお願いします。

【田中】 ありがとうございます。簡単な報告になりますが、先ほど無理やり写真を入れました。

次のスライドに行っていただければと思います。京都コンピュータ学院、京都情報大学院大学、京都自動車専門学校をひっくるめたKCGグループとして今回取り組んだことについて、今から報告いたします。

IGFでいろいろな方が来日してくださっているということを契機として捉えまして、私どもの60周年記念式典において、IGFの前事務局長のマーカス・クマー氏、それからICANNの理事でいらっしゃいます（2023年10月退任）アヴリ・ドリア氏に特別講演をしていただきましたというのが10月6日の出来事でした。

その翌日は若者に焦点を当てていろいろな団体の皆様に御講演いただきまして、「これからのインターネットを担う若者のためのSIG」というイベントを開催させていただきました。長時間のイベントとなってしまいましたけれども、10代の高校生にもJUSA（一般社団法人日本ユニファイド通信事業者協会）さんから、京都に来られていた高校生の方にも英語で発表していただいたり、カンボジアから来ていたユースの方にも発表していただいたりして、なるべく若者を前面に出す取組が珍しくできたのではないかなと思います。

午前中にワークショップをやったんですけれども、こちらもカンボジアからの参加者が非常に多世代に渡って参加してくださいまして、IT関連の催しとしてはいつになく非常に多様な方々に御参加いただき、インターネットガバナンスらしい場所が提供できたのではないかなと思っております。

あと、本学を使いまして、日本IT団体連盟国際委員会の企画といたしまして、Norbert Klein氏の講演会を10月9日に開催いたしました。

10月11日はSocial Networking Partyということで、国内外の団体紹介と懇親会を、こちらは百万遍（キャンパス）本部棟で開催いたしました。

12日はJAIPA様と共催でフェアウェルパーティを開催いたしました。この11日と12日はJAIPAさんとの共催で行ったサイドイベントです。

以上申し上げたのが催事のほうでして、それ以外にも幾つかアクティビティとして、IGF京都に参加したいんだけれどもなかなか余裕がないというユースの方に滞在施設の提供をさせていただきましたし。あと、JAIPAさんから委託を受けて英語のパンフレット作成の中で、なるべく日本のCivil Societyの紹介を英語で行うというものを作成いたしました。こちらにつきましては加藤様や行政の方にも挨拶文をいただきまして、貴重な資料ができたのではないかなと思います。

あわせて、本学駅前校と百万遍（キャンパス）の2か所にわたってリモートハブを設置いたしまして、国際会館も京都市内ではあるんですけれども、登録ができなかったとか、なかなか行けないという方向けのリモートハブを設置し、こちらは累計で1,000名程度の参加がありました。先ほど申し上げましたように本学の学生、そして教職員の参加を促しまして、1,000人規模で会場参加したものがあったかなと思います。

振り返りのセクションにおこがましいんですけれども、今後に向けてというところに関しまして、今回せっかく国内外のユースとのつながりができましたので、これを一過性のものとするのではなくて、今後国内のユースの盛り上げにつなげることができたらいいのかなという意識を改めて強めました。

それから、リモートハブの設置については、学校としても毎年やっていけたらいいのではないかなということで検討を始めております。

先ほど立石先生からありましたけれども、キャパシティビルディングの継続をSIGを通じて行っていきたいと思っておりまして、これについては、今既にオンラインでハイブリッドの公開講座をやっているんですけれども、もう少しいつでも受講できるような形での提供方法や、オープンコースウェアみたいなものを視野に検討しております。

以上になります。

【加藤】 田中先生、どうもありがとうございました。

御質問とか、いかがですか、皆様。若い方がたくさん参加されたとかリモートハブの設置ということで、先ほど3,000以上のオンライン参加というのがカウントされたということだったんですが、私が感じたのは、リモートハブが結構今回多かったのかなという、質問がバングラデシュの会場から何人かが手を挙げてとか、そういう場面が映る機会があったと思うんですが、そういう意味でリモートハブのIGFでの仕組みというのもかなり普及してきたのかなという気がしましたが、皆さん、いかがですか。

石田様、ありがとうございます。手を挙げていただいて、お願いします。

【石田】 すみません、石田です。ありがとうございます。

今回、若者が結構来られて参加していただいたというところなんですけれども、デジタルネイティブの方々が参加されて、どういうコメントが多かったとか、どういう感想が多かったというのは何かありますでしょうか。

【田中】 アンケートみたいなものはちょっとできておりませんでして、私のほうではサイドイベント等に関して、参加者の感想とかを今集積できていないのが現状でございます。

【石田】 そういうことですね、ありがとうございます。もしあったらよかったなと思って。

【加藤】 そうですね。そういう意味では、継続して何か活動していただくというところを、ぜひまたこの会にもフィードバックいただけるといいのかなと思います。

あと、この会にもかなり大学の先生がいらっしゃるので、このSIGの活動をぜひ広めていただくきっかけになればいいなと思いますので、そのことをぜひお願いしたいと思います。

石田さん以外でどなたか御意見、御質問はございますか、この件について。

IT連盟の西山様もいらっしゃいますが、何か追加いただくようなことはありますか。先ほど別のイベントもやっていただいたというコメントもありましたが、いかがでしょうか。突然振って恐縮です。分かりました。聞くのみということで、また何かございましたらチャットに一言書き込んでいただいても結構ですが、承知しました。

ほかにどなたかございますか。

それでは、もう一度京都のアジェンダに戻っていただけますか、山崎さん。田中先生からの御報告以外に今回の京都の振り返りということで、ほかの方から何か御報告いただくことはございますでしょうか。

大体先ほどの岡崎さん等のお話もあったので、この程度の……山崎さん、お願いします。

【山崎】 ほかに御報告いただく方がいらっしゃれば後回しにしようと思ったんですけど、あまりいらっしゃらないようなので。

【加藤】 ぜひお願いします。

【山崎】 個別の我々の団体の話をさせていただきますけれども、JPNIC、日本ネットワークインフォメーションセンターとしまして、先ほど西潟さんからお話がありましたブースの出展をいたしました。かなりいろいろな国のいろいろな方々が立ち寄っていただきまして、お菓子を出したりしたものですからいろいろお話ができたかなと思っております。

ほかには、規模は非常に小さくて、KCGグループさんの1,000人と比べると非常に小さい規模なんですけども、若者のフェローシップを行いまして、公募したんですけども、結局3人のフェローが手を挙げていただいて、その方々の参加をサポートさせていただきました。明後日にその報告会があって、報告書につきましてはJPNICのウェブサイトで公開する予定ですので、追って御覧いただければと思います。場合によっては、活発化チームで企画することになるIGF報告会に出ていただくようお願いするかもしれません。

そういったところが当センターの活動になります。もちろんセッションにはいろいろ参加しましたし、登壇も前村を中心に幾つも行いましたので、その辺は追って報告会のときでも共有できればと思っております。

以上です。

【加藤】 ありがとうございました。

ほかの方はいかがでしょうか。こんなことをやったとか、今の山崎さんのお話にもあったようにセッションで特にこういう気づいたことがあったとか、そういうことでも結構ですが、いかがでしょうか。今は特にございませんか。

【山崎】 石田さんから今、手が挙がりましたけども。

【加藤】 失礼しました。先ほどじゃなくて、新たに挙げていただきました。石田さん、お願いします。

【石田】 今回、私も幾つか聴講させていただきました。今回、IGFに初めて参加させていただいたんですけど、いろいろ世界的なつながりがあったのが面白かったなというのと、あと、今回はメタバースの発表で、メタバース空間からリモートで発表という方も、ねむさんという方がDay 0であったので、今回結構日本らしさが出たのかなとは思いました。今後、日本らしさを出していくようなイベントって、来年度含めてあるんですかね。IGF京都は2023年で終わりなんですけど、2024年を控えて日本がこれからも進めていくような、日本らしさを出していけるような施策というものが海外の、次はカナダでしたか、ちょっと忘れたんですけど……。

【加藤】 サウジアラビアですけれども。

【石田】 あっ、サウジアラビアですね。何かあるのかなというのをちょっと気にしています。という感想とコメントでした。

【加藤】 ありがとうございます。ねむさんということだと前村さんが御存じですかね。

【前村】 ちょっとコメントさせていただきたいと思います。ねむさんのセッションは私がコーディネーターということでやったんですけど、JPNICがメタバースに関心があるということではなくて、これは日本インターネットガバナンスフォーラム2022でねむさんをフィーチャーしたDay 0というタイミングでセッションをやったんです。それで、そのときにメタバースの住民がどのような生態なのかとか、今のメタバースの問題とか、そういう話をやったら非常に面白かったんで、これに関しては絶対IGF京都に持ち込んで通してやろうと思いまして、日本で、これは日本IGFタスクフォースであったり、ISOC-JPであったりというところで、セッションのプロポーザルを、各チュートリアルをやったり、あとはそういうような日本から何か出せるセッションはないかなと思案したということをやりまして、その中の一つとしてねむさんのセッションで、あれはワークショップにもオープンフォーラムにもならないような感じだったんで、Day 0のプレゼンテーションという枠組みで応募したところ通りました。今、石田さんがおっしゃったようにとても日本の色が出た、いいセッションだったんじゃないのかなと思いますし、私も、今石田さんがおっしゃったようにIGFに対してメタバースの住民を出してみるとか、あるいはメタバースのほうのねむさんの追っかけみたいな方がたくさんユーチューブにいらっしゃったんですね。それで、そういうような方々をIGFの空間に持ち込むとか、そういうところもダイバーシティとして捉えることができる非常に面白いセッションになったんじゃないのかなと思います。

それで、それ以外にも日本の色が出ていたセッションというのは幾つかありまして、例えば漫画海賊版のセッション、こちらには村井純先生もいらっしゃいましたけども、何といっても萩尾望都先生、漫画家の巨匠の先生にも御出馬いただいて、漫画の意義の深さとか、それに対して漫画海賊版のダメージのシリアスさといったところを訴求するようなセッションを組んでいただきまして、こちらのほうは私もいたんですけども、全世界の漫画ファンの愛に満ちた打ち出しになったんじゃないのかなと思うんです。国内だけの問題ではなくて、あのような形でセッションとして記録して、今後は漫画海賊版についてはIGF京都2023のこのセッションの記録を見るとよく分かるよと言えるものができたということで、とてもよかったのではないのかなと思います。

それ以外にも、日本からお誘いして、お誘いに乗っていただいて出したセッションは、例えKCGさんに関してはロボットの話をしていただいたりいろいろなものが出ていて、その辺も日本らしさを増幅したんじゃないのかなというふうに思っているところです。

私からは以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかにコメントとか御報告のようなことはございますか、皆さん。

【石田】 ありがとうございます。あとチャットでもいただいたとおり、カナダなんですかね。カナダも……。

【前村】 いや、それは、まず正式発表としてサウジアラビアになったんです。それに対して非常に力強い反対の表明が最後のオープンマイクであったことは確かで、そういった動きというのか、そういうような意見は出てきたというところです。

【石田】 ありがとうございます。失礼しました。

【加藤】 ありがとうございます。

西潟さんの手が挙がっていますか。田中先生はその後で、申し訳ありません。

【西潟】 いや、田中先生のほうが先ですよ。

【加藤】 そうだったですか、失礼しました。

それでは、田中先生、先にお願いします。

【田中】 大変畏れ多いのですが、今のお話の中で日本に生活されている方からのプレゼンテーションが幾つかあって、せっかく京都で開催したので日本の方たちも意見を出せてよかったねというように解釈したいのですけれども、あまりここで『日本らしさ』という切り口でお話しされてしまうと、インターネットガバナンスフォーラムらしい多様な議論の仕組みから少し逸脱してしまう気がしたので、一言申し上げたいなと思って手を挙げました。

【加藤】 どうもありがとうございます。

【前村】 田中さん、どうもありがとうございます。おっしゃっているポイントとはとても分かって、ダイバーシティがあるほうがいいよねというのは本当にそのとおりなんですけども、今回は日本開催が決まった上で日本の色合いを、それはそうとして出したかった、もっと日本の色が出ていいんじゃないか、IGFの空間では、と思っていたところなのでその上ではよかったなと思います。これが日本一色になってしまうと、いや、それは駄目だなと思うところなんですけど、まだまだそこまでじゃなかったかなと思うところです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、西潟様、よろしくお願いします。

【西潟】 ありがとうございます。

田中先生のおっしゃったことも合わせて、その前に石田さんから言われていることを2つ合わせると、多分、これは私個人のオブザベーションですけど、自動車業界のトヨタと違うので、むしろ日本がもっと出てこなきゃいけないところに非常に企画をたくさん出せたという意味では非常によかったと思っています。具体的に言えば、まさにメタバースなんていうのは、中国を筆頭にほかの国もいろいろやっているところはあるんでしょうけど、日本のイベントで日本がこういうことを考えていますと出せたのは、このDay 0のねむさんもそうですし、ほかのセッションもあったように記憶しますけど、よかったと思います。

他方で、その流れの文脈でいくと、石田さんの最初の御質問とも関わるんだけど、2023年、今年は国際会議の当たり年なんですよ、実は日本は。3月にIETFがあり、その後G7のホストがあり、それでそのG7の成果がサミットを経てIGFで引っ張ってというぐらいの、総務省はIETFの直接の運営には携わってないですけども引っ張りだこというか、本当に忙しくさせていただいた1年でもあったんです。その意味では、それぞれの機会でそれぞれ、少なくとも政府の側から言うとやれることはやれたのかなと。

特に展示の話に戻らせてもらうと、もともとIGFの展示って、IGFの事務局さんのほうで一括募集して、手挙げ式なんですよ。なんですけども、G7の高崎にIGF事務局のチャンゲタイが来て高崎を見た際に、G7のあれ（高崎での通信大臣会合）は日本企業の売り込みもやりますので、それを見て、「こういうのが京都でも欲しい」と言われたもので、そこから出てきた話だったんですよ。そういう意味ではイレギュラーだと思います。逆に言うと、京都でやっていて、IGFの事務局が公募している展示のところに最初から手を挙げておられた意識の高いのはJPRSだけなんですよ、私の知る限り。そういう意味では、結果的にチャンゲタイの話と合わさってできたことでもあるんで、せっかくの機会なので思い切りやらせてもらいましたけど、海賊版を真ん中に置いたりとか。

あるいはKCGグループさんにもロボットをやっていただきましたし、あれは大臣にも見ていただいたり、いろいろと御苦労もおかけしましたけども、あるいは京都の地元でITをやっていらっしゃる企業、ベンチャーとかスタートアップとかで頑張っていらっしゃる方、京都だからということでお声かけして御協力いただいたりとか、それこそ京都ゆえのいろいろなところで何かしらの人の流れはあったんで、新しいつながりとか歩留りとかができればいいと思っているんですけども、そういった意味では日本でやったからこそできた、その意味では石田さんのお問合せの部分に戻るんだけども、場所はさておき、今いろいろ議論があるわけなんですけど、来年も同じことができるかというと、少なくともセッションとかはできると思うんですけど、展示とかで、例えばの話ですけどNTTグループさんが今回、IOWNのロボット的なものも含めていろいろ展示をしていただいたんだけども、あれを来年も似たような形で、あるいは旬のものというのもあるのかもしれないんだけどもお持ちいただけるかというと、別の思惑からオーケーしてくれるかもしれませんけども、同じ発想では厳しいかもしれないというのはあると思いますし、そんな中で、田中さんもおっしゃっていますし、いろいろな人間的なつながりとか、例えばユースで世界的につながっているというものであれば、それは場所がどこであったって、今度はサウジアラビアで会いましょうということだってできるのかもしれませんし、できることとできないことの中で、うまく日本が間に入っているようなものというのをあぶり出していった上で、それを強めていくというのはあり得るのかもしれませんし、そういったことというのは、むしろこの活発化チームの皆さんで議論いただくのが正しい場所なのかなと思ってお聞きしておりました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございました。

ほかの方はいかがでしょうか。特にございませんか、これ以外は。

今、西潟さんも言われたブースの件で一つ感じたのは、日本企業の方がたくさんブースを出していただいて、今回、全体でもプライベートセクターの参加比率が結構高かったというのがあって、そういう意味でも今回ブースを出すということで参加された方々がこのIGFを知っていた

だくのはいい機会だったのかなということを、私もちょっと感じました。かなりの人数の方がそれでお越しいただいていたので、全体の人数にもプラスになったのかなという印象がありました。

ということで……。

【西潟】 いや、逆に、今この画面に出していただいていますけども、今回のレイアウトはセッションに行こうとすると、必ず展示を通らないといけないんですよ。失礼があったら申し訳ないけども、多分日本企業のほうは我々のほうから声をかけているんで、皆さん、人が張りついてくれて、逆にそれがプラスになって来場者の方も立ち寄ってくれたりとかしてくれたと思うんです。逆に言うとそれ以外の、例えばGithubさんのブースだったりとか、Googleさんのブースだったりとかはスカスカだったじゃないですか、言っちゃ悪いけど。一部ぬいぐるみ、着ぐるみがピョンピョンしていた所はありましたけど、アジア的に正しいことをやっていましたけど、逆に言うと本来はあっちが普通なんですよ、IGFのエキシビション、私の知っているIGFだと。

【加藤】 そうですね。

【西潟】 だからそういった意味では、今回はイレギュラーというのは申し上げたとおりで、チャンゲタイから言われたというのもあったんで、総務省としては悪乗りして、例えばプレステの最新機器も置かせてもらいましたし、そこで一番遊んでいたのはIGFの警備員の人たちだったりとか、そういうほほ笑ましいのもありつつ、それこそJPNICさんとかWIDEプロジェクトさんもそうですけども真面目な展示もしていただきつつ、漫画のポップアップでみんな写真撮ってもらうというエンターテインメントも、やり過ぎるといけないんだけど、あとはGMOさんが舞妓さんを置いてくれたりとか、そういうエンターテインメントもあったりしてほどよく半分は盛り上がったんで、もう半分は逆に言うと盛り上がらないはずなので、半分ぐらいは頑張りましたというところではあるのかなと思いました。

だから、サウジアラビアがどうするかは知りません。サウジなりカナダなんですけど、そこは開催国との関係もあるし、チャンゲタイが「今年がよかったから来年もやってくれ」と言うかもしれないし、ただ、今度はホスト国じゃないんで、仮にもう一回ソニーのプレイステーションさんに同じことをお願いするといっても、そこはちゃんと公募枠のほうでいかなきゃいけないんで、同じような結果が得られるかというのはまた微妙で、みたいなところは、いろいろなあれがあるかもしれません。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方はいかがですか。大体京都の振り返りはこの程度でよろしいでしょうか。また、何か思いつくことがあればコメントいただくということで、次に移らせていただきたいと思います。

前村さん、IGFタスクフォースのほうから追加の御報告というのはございますでしょうか。

【前村】 タスクフォースのほうなんですけども、前に御報告したときにどういうことを申し上げたかというと、会員、設立発起人というのはJAIPAさん、IAjapanさん、WIDEプロジェクト、私どもJPNIC、あと活発化チームという5つなんですが、それから、会員招請して会員の皆さんに集まっ

ていただいてみんなで盛り上げていく、みんなで政府に対して何かアドバイスみたいなことができるといいなというようなことでやろうとしていたんですけども、これは私が担当していたところではあるんですけども、そういった普通の企業の皆さんに御参画いただくというところに当たって、入会するといいインセンティブというのか、誘引というものがどうも弱いんじゃないのかというようなことを考えていて、それに対してどうやったらいいかと思い悩んでいたんですけどなかなかそれがうまく設計できませんで、結局会員を招請して、たくさんの会員の皆さんでタスクフォースという形の活動をするというところに結びつきませんでしたというところが、タスクフォースがどうなったかというところの簡単な記述となりますので、これはIGF2023に向けてタスクフォースをつくって、その後、継続的な国内IGFの活動基盤をつくっていきたいというようなことをもともとはタスクフォースで考えていて、それを考える上で活発化チームのほうの議論もそれに沿った形でやっていこうということをこちらのほうでも話し合っていただいたというようなところだったんですけども、今後どうやっていくかというのは、ぜひとも今から皆さんと一緒に考えていきたいと思いますし、それはタスクフォースという形で別の団体となっていますけども、ここは別に2つ団体をつくる意味があるわけではないので、皆さんで今後のIGFの国内活動というものをつくっていくための体制というのを検討していければなと思っております。その上で、今日メーリングリストのほうにも加藤さんが投げていただきましたけども、今後の活動をこうしていってはいかがかというとてもすばらしいキックオフをしていただいていると思いますので、今後の検討は私としても関与してまいりたいと思います。

以上です。失礼いたしました。

【加藤】 前村さん、ありがとうございます。

ということで、タスクフォースに関して御質問等はございますか。

もしこの段階でなければ、この活発化チームの今後ということで、今後という意味は、活発化チームだけではなくて、京都以降、日本でのIGF活動をどうしていくかというもう少し広いお話になるかとは思います。タスクフォースも含めて、今、前村さんからお話しいただいたように今後の活動をどうしようかというお話だと思いますが、ここに今出ておりますアジェンダの過去の議論ですけれども、前々回に「特に異議なし」と書いていただいた少し下のほうに、この京都会議以降、その先をどうしようかということを考えましょうということで、これは前々回ですから2か月近く前に京都が終わった後どうしようかということを考えましょうというお話で、大体その流れで今日まで来ていると思うんですけれども、今後もこの活発化チームが、取りあえず活発化チームの名前自身が2023年を活発化するということで行ってきたわけですけれども、継続することを検討しようというお話を、今、させていただいているわけです。

今回の京都会議の報告会は、それはそれで何らかの形でやるというラフコンセンサスがあったんじゃないかと思いますが、それは別として、今後のIGF活動をどういう形でどうするかということについて、ぜひ今日は皆さんのいろいろな御意見をいただきたいと思います。先ほど前村様に御指摘いただいたとおり加藤私案という名前にしましたけれども、今まで前回の会合を含めて皆さんからいただいたコメントを私なりにまとめてみて、このような方向で検討したらどうかと、

なるべく早くに方向性をきちんと出していく必要があると思いますが、まとめをつくらせていただきました。

話の内容に入る前に、一般的にも考え方について御意見や御質問等がある方、まずお願いしたいと思います。それを踏まえて、もしよろしければ私が先ほど出させていただいた加藤私案を少し説明させていただきたいと思います。いかがでしょうか。

【立石】 お願いします。

【加藤】 では、この段階で特に御質問ないということで、もう一度、山崎さん、加藤私案というのを映していただけますでしょうか。

【山崎】 今、立石さん、何かおっしゃいませんでしたか。

【加藤】 立石さんは、多分私の私案について御説明させていただくことを御了解いただいたというように思いますけれども。

【立石】 そうです。

【加藤】 では、8項目なんですけれども、恐らく読んでいただいたら「極めてそうかな」ということを書かせていただいたような気がしますが、すみません、その前に、高松さんから御質問があったのを私が見逃していたのでそれに戻りますが、「タスクフォースは活動としては終了されたといった状況でしょうか」というのは、前村さん、どうお答えすればよろしいんでしょうか。

【前村】 書こうとしたところなんですけども、解散はしておりません。ただ、IGF2023に向けた活動という意味では組み立てられずに終わっているので、これからIGF以降の体制を検討するという段階でどのように回収というのか、後始末というのか、検討していくのかというのは今から残っている課題であります。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で活動は正式に終了ということはなくて、今は休止中だということで御理解いただければと思います。

画面の加藤私案に戻らせていただきますと、まず1項目、京都会議の盛り上がり、先ほどから活発に皆さんに感想を述べていただきましたけれども、来年どうしようかとか、どういうことになるかという、そういう話を受皿として続けられるようなIGFの仕組みというのを何か継続したいと。今のタスクフォースもこれからどうするかという検討をしているところですし、活発化チームも2023年で一区切りですけれども今後どうしようかという段階なので、ぜひ何らかの継続的なものをやりたいと。ただ、やる場合に、IGFというのは基本方針として誰もが自由に参加して、発言して、活動は公開するという考え方のIGFの仕組みをつくっていくべきなんじゃないか、活発化チームはこれまでそういう考え方でやってきたので、その精神としてそういうことを継続するのがよいのではないかというのが私の思っていることです。

その前提で、これまでIGFのタスクフォース、IGCJ、IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チームと、少なくとも今この3つがあるわけですけれども、今後それらを統合する形で、それぞれのよさを生かしながら一つにまとまって活動していくことができないかなと思っております。

それと同時に、去年、活発化チームを法人化するという議論をかなり進めさせていただいたわけですが、そのときは、取りあえず今年どういう形で法人化するかという話はペンディングとして、今年1年間は京都会議の成功のためにみんなで努力しましょうということで終わっていたわけです。もう一度、この時点でそういう日本でのIGFの活動を一つにするに当たって、独自の名前で会議を招集したり、総務省の後援をいただいたりとか、場合によっては寄附を受けられるような法的な仕組みをつくるという意味でもう一度法人化の議論を検討すべきなんじゃないかと思います。

ただ、法人化するといっても、以前の法人化の議論のときには最低1,000万円というお金を集めてきちんとした事務局をつくってというお話がありましたが、実際は、今はボランティアという言葉をあまり強く押し出すのはどうかというのもありますけれども、JPNICさん、JAIPAさんを含めていろいろな方々が手弁当で活動していただくことによって、かなりの活動は費用をかけずにやってこられているということで、今後も、もし法人化するとしても大きな予算を確保するということではなくて、できる範囲でなるべく限られた予算で継続していくという方向がいいのではないかと思います。数字をポンと出して恐縮ですけれども、法人を維持するというだけなら本当に何十万円とか100万円とか、そういうお金でも法人を維持することはやれるわけです。そういう意味で、それにどれだけ追加していくかというのは、もちろん企業や政府からの寄附ということでぜひお願いし、かつそういうのは貴重なリソースになりますけれども、そういうことが絶対条件ではないという形で法人化を考えたらどうかと思います。

これはいろいろなところでこれまでも御指摘があったんですが、6番目です。IGFに関する組織というよりは、インターネットガバナンスについて日本の中で意見交換をしたり、意見提言をしたりという活動もできるような、そういう幅を持った組織にすることがいいのではないかと。インターネットガバナンスフォーラム自身も、今のWSIS+20を考えますと、2年後にはなくなるかもしれませんし、形を変えるかもしれないという、今回の京都の様子を見ていてもそういう可能性もあるわけですから、もう少しグローバルデジタルコンパクトというものも含めて、インターネットガバナンス全般についてもフォローできるような仕組みのほうがいいんじゃないかというように思います。

ただ、IGFに対しては、正式に日本のNRIとして登録していろいろな意見を発信したり、情報収集するという活動を位置づける必要があるのではないかと思います。事実上、今NRIも京都に向けて、山崎さんや河内さんと一緒にリエゾンとしての活動はしてきたわけですけれども、そういうものも正式に表明して、日本のIGFに関わる団体が国際的にも情報発信し、かつ日本でやっている活動をうまく知らしめていくということも必要なんじゃないかと思います。

最後、一番重要かもしれませんが、会議とか組織の運営なんですけれども、イメージとして、これは今までも事実上それに近いことを活発化チームではやってきたわけですが、今日やっているような会議、今後は月例ぐらいでどうかということで今進んできておりますが、本会議といいますか全体会議、これはもう誰でも参加し、自由に発言できるというこの形態の会議を継続する。同時に、これまでもプログラム委員会とかいろいろな形でアドホックにいろいろな委員会とか活動してきましたが、企画ごとのプログラム委員会のような委員会活動と、さらには、場合によっては

部会ということで、先ほどから日本らしいいろいろな、漫画の海賊版の話とかもありましたけれども、そういうようなイシューごとの部会というようなものも、これもアドホックな形で結構だと思いますが、何か設立していけるといいのかなと思います。さらに、それらを支援する事務局というものをもう少しきちんと法人化する場合には定義して、継続して活動するということを考えていきたいと思います。

実質的に事務局は、今はJPNICさん、山崎さんに、特に毎月のようにこういうネット配信からいろいろなことをやっていただいているわけですが、大変申し訳ないですけど、そういうことをこれからもかなりお願いすると思いますし、それから、いろいろな方がコンテンツに関してもボランティア参加いただいたりするという機会を増やしていきたいと思います。

それから、その延長で、これまでもこの活発化チームでお話がありましたけれども、例えば2か月に1回とか案件の勉強会といいますか、討論会でも結構ですし、パネル形式の議論でも結構ですけども、そういうイベントをぜひ今後は継続して、年に1回の日本IGFの活動とその報告会ということではなくて、もう少しサブスタンスの議論をできる場を増やしていければなというように思っております。

以上が、大体今後活発化チームとして検討していただきたい日本でのIGF活動の方向性でございます。

ということで、司会の私が申し上げて恐縮ですけれども、御意見とか御質問はございますでしょうか。何か御質問、御意見、御批判と言えばよろしいでしょうか。

【高松】 すみません、高松です。まず、今御説明いただいた内容への質問をさせていただきたくて、加藤さんがつくっていただいた案でのいわゆる事務局というのは、どういったことをするというイメージをされていますでしょうか。

【加藤】 これは私の勝手な想像ですけれども、今、実際はJPNICさん、JAIPAさんがいろいろな活動の場合に人を出していただいたり、汗を流していただいたりしていることが多くて、今日のような会議でJPNICさんは引き続き事務局という立場でこういう会のロジをお手伝いいただく、JAIPAさんも年次会合とかそういうときにいろいろな御協力いただいたり、JAIPAさんの場合はさらに企業からの寄附をお願いするとか、そういうときにも声をかけていただくお手伝いをいただけるのかなと思いますし、それから、河内さんも所属されている（一般財団法人国際経済連携推進センター）CFIECさんです。先日の日本IGF会議で会議の議事録をまとめていただいて、英文版もつくっていただいて、そのコンテンツをすぐウェブに提示することができまして、これからCFIECさんももう少しそういう中身についてのコメントも、コメントといいますか、コンテンツの作成にも参加いただけるかなと思っていまして、そういう活動を全部合わせて事務局機能といいますか、そういうように思っていまして、組織ですから一応担当者は誰とか、責任者は誰とか、そういう指名はさせていただくのがいいのかなと思っています。

高松さん、それでお答えになっていますでしょうか。

【高松】 ありがとうございます。では、もし法人化した場合はそういった事務局を、今まで手伝ってくださっているJPNICやJAIPAさんに委託料というかお金を支払いしながら、より正式に手伝っていただくみたいな、そんな……。

【加藤】 そうですね。ただ委託料は限りなくゼロに近いか、当面はゼロかもしれないということはありますけれども、できればある程度のお金が払えるようになればいいとは思いますが、さっき申し上げたようにできるだけ活動に関しては、費用は最小限からスタートはできればなと思います。

【高松】 ありがとうございます。どちらかというとロジ回りあたりをしっかりとサポートしてくださる事務局といったイメージなのかなと。

【加藤】 全くそのとおりです。実際、例えばまた日本で今申し上げた2か月に1回、何かパネルディスカッションを企画するという場合に運営のお手伝いをいただくとか、そういうことはいろいろなところでできるかなと思います。

【高松】 ありがとうございます。西潟さんが手を挙げていらっしゃるので、私は一旦終わります。

【加藤】 西潟さん、よろしくお願いします。

【西潟】 ありがとうございます。まず、質問としてお聞きしたかったのは、このIGFという言葉自体は、国連ではもう20年やっていますけど、例えばIGF組織と言われたときに、このIGF組織というのはNRIと読み替えていいんですか。

【加藤】 そういうことだと思います。IGFから見て日本のIGF組織というのはNRIということになるんじゃないかと思います。ただ、この組織が、じゃあ、IGFだけのためにやるのかというと、6番目に書いたとおりインターネットガバナンスをもう少し広く取り上げるということになると、その部分についてはIGFのNRIということでIGF組織なんだけれども、インターネットガバナンスについてもう少し広く扱えるような活動、グループと、そういう団体になるというのがよりいいのかなと思います。

【西潟】 ありがとうございます。一つクリアになりました。

今回いただいた案ですと、これまで活発化チームでディスカッションとかをお聞きしているときによく出てきた言葉、この紙には書いていないんだけどIGF活動という言葉もありますよね。そのIGF活動という言葉、ここには入ってないんでいいんですけども、まさしく6番にある狭義のIGF関連活動という言葉とも関連するんだけれども、IGFのほうが訳の分からない方向に広がっている中でどこへ行くのかしらと、例えば今年のIGFのサブテーマが8個ぐらいありましたよね、ITにもとどまっていないような世界まで行っちゃっているわけです。というところをこの会議で追うのかみたいなところと、片やIGFのほうは広がっているので、IGFを追いかけていくときは多分そっちを追いかけていくんでしょうけども、インターネットガバナンスのコアの話というのは多分もっと別の話で、先ほど加藤さんがいみじくもおっしゃったんだけど国連のグローバルデジタルコンパクト(GDC)の話とか、それこそ昔ここでも触れていただいているし、あれなんだけども、IGCJが最初にそれこそ我が国の将来のことも考えて一生懸命議論いただいたのは、IANA契約のターミネーションのときに日本がどう振る舞うかということだったと認識しているし、それとこのGDC、

変な方向に行かないようにというのも含め、あるいは、それこそ先ほどの議論の延長で言えば日本色を打ち出していけるのかどうかみたいな、まさにIGF的な場を使って、IGFはどこまでそれに貢献できるのかというのは別途あるにしてもですけども、物を言い続けるということをするのかどうかとか、その辺のところが、多分今の状況って、活発化チームが悪いんじゃなくて、私に言わせればIGFのほうが悪いんだけれども、それに引っ張られちゃっているという意味なんだけども、足がたくさんあるヒトデみたいな、どれも伸びちゃっているんですよ。だから全部を追いかけるとすごい団体になっちゃって、そのときに、多分今加藤さんが少しおっしゃったまさにCFIECさんが新しいプレーヤーとしてどこまで見ていいのかとか、見ていいというのは期待していいのかという意味なんですけども、今これを私案としてここまでおまとめいただいたこと自体は、まずは本当にありがとうございますなんですけれども、それを書かれていただくに当たって、加藤さんのほうでどのような形で見ていらっしゃるのかというところを今日いただけるとありがたいと思いました。ありがとうございます。

【加藤】 今の御質問、ありがとうございます。

まず、6番目でインターネットガバナンスを広くカバーができるという意味は、全てのことをやるというか、できるというつもりではなくて、案件ごとに、これはこのグループで対応したいということを決めて対応していける、IGF自身が非常に広がった活動ではありますけれども、その中で何を日本から見て重点的にやろうかというのはこの会議で議論して決めていくということだと思います。非常に深くフォローするということになると、自然と8番目にあります部会なりをつくってきちんとフォローするということになるのではないかと思います。

それで、今の国際経済連携推進センターでも、河内さんがいらっしゃれば河内さんからもコメントをいただきたいんですが、こういう問題についてもう少しデジタルのハイレベルな、ハイレベルという意味は上位レイヤーの問題も検討していくというように考えておりますので、そういうことを含めてコンテンツの提供ができる枠組みというのは考えていくことができると思います。

河内さん、そこについて何かコメントはありますでしょうか。河内さんのほうでも今回の京都会議のまとめをつくってというようなことも聞いていまして、やっているわけですけれども、そういうことを含めて、コンテンツの面からも日本でのIGF、インターネットガバナンス活動へのサポートというのができるのかなと思いますが、どうでしょうか。

【河内】 先ほど西潟さんもちょっとおっしゃいましたけども、インターネットガバナンスフォーラムというか、インターネットガバナンスというか、IGFで取り扱うテーマというのはもうかなり幅広く、デジタルに関わること全てに関わっているというのが現実だと思いますし、今この世の中、グローバルな社会において、デジタルはありとあらゆるところに関わるというか、全てにおいて関わってくるというのが実感というところで、インターネットガバナンスはグローバル社会にとって非常に重要なテーマが幾つも出てきている、プラス新しいトピック、例えば生成AIがいきなり出てきて、本当はいきなりじゃないのかもしれないですけども、社会的には急激に重視されたりとか、どんどん新しいものが出てくるというものもあって、そういうことを広く、私たちの組織は決してリソースはそんなに、人数もそんなに多くなくて、専門知識もそんなにあるわけではないですけれ

ども、できる限りできる範囲でそういうところに、何が重要で、どういうことが重要で、どういう専門家の知識人の方々に御協力いただいていろいろな調査研究を進めていけたらということを考えています。

それでお答えになっていますか。

【加藤】 あと、確かに河内さんはこの財団といいますか、CFIECというセンターですけれども、そこの内部の事務局としてはそんなに大きくはないんですけれども、ここにいらっしゃる上村先生とか西岡先生とかを含めて関係者の御専門の方々と一緒に勉強していくという体制も、今つくりつつあります。そういう意味でコンテンツについていろいろな形でのサポートさせていただくとか、それから、さっき申し上げた2か月に1回程度、中身についての研究会なり勉強会がある場合に、そのサポートを中身に関してもさせていただくということはできるのかなと私は思いますが、河内さん、それはどうですか。

【河内】 多分このグループに参加されている方々は、皆さんいろいろな御経験とか知識とかをすごい持っていらっしゃる方はたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々に、お忙しいところ恐縮ですけどいろいろサポートいただいて、我々でできることをやっていければというふうに考えています。

【加藤】 西潟さん、それでお答えになっていますでしょうか。中身について……。

【西潟】 大丈夫です。今お考えになられていることは重々伝わりました。ありがとうございます。どっちみち相手が鵺みたいなものなので、こっちもどこに軸足を置いてというのは我々のやり方があっていいと思いますし、それを特にもう一回コンソリデートし直して体制を整えた暁には、それを決めるプロセスなり体制というのがしっかりできていれば、それはそのときの皆さんでということだと思いました。その意味ではこれ以上のあれはないんですけども、ついでにもう一つ質問させていただくと、これは私も知見がなくて、限られた部分しか知見がなくて、むしろ前村さんだったり、上村さんだったり、あるいはその他、IGFの周辺のことに詳しい方がいらっしゃればぜひ教えていただきたいんだけれども、活発化チームという名前をつけるぐらいですから、2023の前においてそもそもあまり活発じゃなかったという前提に立たせていただきますけれども、その前提に立ったときに、例えばこの国のIGF、このIGF活動という言葉の定義は曖昧なんだけれども、この国はまねしたいとか、ここの国はこれはやり過ぎなんだけどいいところもあるとか、そういうことの人まねじゃないんですけども、もちろん人まねから入らないと活発化してないわけだからということで申し上げているんだけども、何かロールモデルとまでは言わないんですけども参考になるもの、例えばあそこのあれと、これとこれを足せたら日本にフィットするんじゃないか、みたいな、こんないい例があるかどうか分からないんですけど、そういうものがもしあると、多分そういったところを参考にできるのかなと思ったんです。

というのは、私、IGFのほうで加藤さんからの御紹介もあって、AIに関するポリシーネットワークという、いわゆるインターセッショナル（通年活動）なところに関わらせてもらって、そこで中心的に議論をやっている女性の方、リードしている方が、実はICANNでアットラージのアドバイザリーコミッティにいた人だったりするわけですよ。その人はインド人なんだけども、他方でインド

のIGF活動がどうかみたいな話もあろうかと思うので、だからそういった意味で、どこの国、例えばアメリカのIGF活動は活発なのか、私は個人的にネガティブで、シビルソサエティが勝手に来るだけというイメージなんです。なので、そうすると、インドの女性の方とは久々にIGFと、（ICANN78会議と）もう本当に1週間おきぐらいに会えたんでさらに仲よくなれたというのがあったんですけど、かといって、彼女のところがインドを代表しているかどうかすらも怪しいという、インド系の外見とお名前ではあるんだけれども、そういうような中で、韓国だってそんなに、今回はIGFだってほとんど韓国の人はお見かけしてないし、アジアからたくさん人が来てくださっていたけど、みたいな、身近なところでもあまり参考になるのが私、個人的にはなくて、その中から、我々の独自性を本当に生み出していくのってかなりエネルギーが要るので、そこはむしろ個人的にはショートカットしたい部分があって、それこそ今いろいろお話をいただいた部分からすると早くサブに行きたいじゃないですか、2026のIGFがあるかどうか分からないけれども、御発言がどなたかからありましたけど、言い返すつもりは決してないんだけど、一応G7のステートメントではIGFの方を、今のIGFをサポートすると、少なくともG7は言っているんでプッシュしていきますよというのはあるんで、私は残るほうに賭けたいぐらいのところあるんですけど。だから、そういうのも含めて言うと、(20)25で切るだけだったら、イベントだけあと2つ追いかければいいという話なんだけども、(20)26があるという仮定に立つと、これは前提にしませんけども、もうちょっと何かしらイメージも共有できているようなものがあるとこの議論がより、ここに来てくださっている皆さんとも共有しやすいんじゃないかなと。「それだったら俺はこれできる、これは無理だ」みたいな、役人だってそういうところはいろいろありますので、そういうものがそれぞれの御自身の今のポジション、お立場、役職、いろいろなところでイメージできるようになるのかなと思って、もしどなたかイメージを持っていらっしゃれば、あるいは参考になるものを御存知の方がいらっしゃれば、いただけると非常にありがたいなと思って質問しました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

立石さんが手を挙げていただいているんですが、いかがでしょうか。

【立石】 西潟さんがおっしゃっているのに合っているかどうか分からないですけど、そういう意味では、僕はブラジルかなと思っています。ブラジルに限らず、チリもそうなんですけど、ネットワークの中立性に関する法律もチリが確か世界で一番最初にできていますし、例の2014年の、これは前村さんのほうが詳しいと思いますが、NETMundialにしてもブラジルだし、それから今回、SIGにしても、それから我々のサイドイベントにしても、ブラジルの方、それもシビルソサエティがいっぱい来ていただいたんです。その辺、何で南米、ブラジル、アルゼンチン、チリあたりがすごいのか、私にはいまいちよく分かってはいないんですけど、ICANNに行っても、CGI.brの話はしょっちゅう聞くし、この間、たまたまサイドイベントの二次会に来ていただいたブラジルの女性陣と話をしていても、SIGでプラスアルファ、来年のNETMundial+10をやるみたいなお誘いを受けたりしていて、そういう意味では、恐らく日本で一番弱いのがシビルソサエティなので、その辺の頻度なんかはWolfgang (Kleinwächter)先生とか【聴取不能】さんのところと話をしている中で、「なぜか」みたいな話は何となく見えてはきたんですけど、とはいえ、じゃあ、今いまはどうなんですかみたいな話だと、国としてはブラジルなのかなという気がします。特にシビルソサエティという

意味で、コンシューマユニオンだけじゃなくてちゃんと入っているというイメージでは、ヨーロッパも結構、EuroDIGなんかの話を聞いているとそんな気もしますけど、といえばブラジルかなと。その程度ですけど、すみません、御参考になったかどうか。

【加藤】 ありがとうございます。

田中先生、お願いします。

【田中】 先ほど、市民社会の参加に関して立石先生のほうから御発言がございましたけれども、今この法人化の体制をつくられるに当たって、なるべくできるところからという形で手弁当でやっていくというのは全く現実的ですし、そのような形で貢献できるところは携わっていけたらいいなというふうに思っております。

他方で、いろいろな取組をやっていくに当たって予算ですとか、持続可能な事業みたいなものも併せて走らせていったほうが、手弁当の形だと余裕がある人は参加できるんですけれども、そうでない、せっぱ詰まっている人は足かせを取って参加していくことがなかなかできないのが日本の長時間労働の社会かなというように思いますので、余裕があればボランティアをしたりとか、市民社会活動に携わる方も多いと思うんですけれども、そういうのがなかなか社会の構造としてやりにくい中、一歩踏み込んでそういった方に参加してもらえるような仕組みをつくるには、今ここに集まっている方は自主的な思いや、それぞれの携わり方でこういった活動に参加できているわけですけれども、ある日突然家庭に何かがあったり、私の場合もそうなれば、なかなか継続してできることではなくなってしまうということを少し危惧しております。そういったマルチステークホルダーを壇上に上げるのに当たって、今、こちらにいらっしゃる専門知識を持ちの方々は割と、「あっ、それが話題だったらこの人を呼べばいいね」というような形でピンポイントで人をすくってこられるんですけれども、その方もいつまで元気でやっていただけるかどうか分からないということを思うと、持続可能になるように何か、単に手弁当でやっていくだけではなくて、またブラジルは制度的な形でドメインの運営の何%かはインターネットガバナンスの対話にお金を使うというようなやり方のお話をたしかSIGの方から伺いましたので、そういうような形で吸い上げるための何らかの手だてを併せてこれから検討していけるといいのではないのかなと思いました。

【加藤】 ありがとうございます。おっしゃるとおり、私の案も今日のような会議に参加すること自身は費用もなく誰でも参加できるということですが、事務局の活動が全て手弁当でボランティアだと、なかなかそういうところまでの貢献が難しいというのがあるので、御指摘のとおり、もう少しきちんとした予算が今後はできていけばそのほうが望ましいというのは、そのとおりだと思います。

高松さんも手を挙げていただいたように思ったんですが、違いましたか。

【高松】 いえ、先ほど手を挙げさせていただいて、私も割と、田中さんが今かなり私も思ったことをお話ししてくださったというところと、あと、すごく正直に言いますと、私、進められるナショナルIGFのモデルがないというのが私の個人的な印象がすごくあって、あったら本当に御紹介したいなと思って、周りにも聞いて回っていたんですけど、やっぱりヨーロッパとか、あとブラジルも含めてなんですけど、それをかなりメインのイシューにしている団体がそもそもあるというのを

ベースに、彼らはかなり大きい活動をしているというのがまず第一にあって、話を聞く限りだと、国民性なのか何なのかという辺りがよく分からないんですが、企業にしたって、市民社会の方にしたって、インターネットガバナンスに関する議論には参加しなければといったモチベーションがもともとかなり高い人たちが多いんじゃないかなと思っていますと。

先ほどの西潟さんの話にあった韓国なんですけど、私の聞いた限りでは韓国はあまりなくて、どちらかというとあそこはユースを、割と政府に近いところの団体をもっと巻き込んでいかなきゃという意識から、大学と一緒にプログラムを完全な授業の形につくったりということで、今回のIGF京都に何人か来ていたんですけど、その人たちは大学のプログラムを受けた人たちで選抜を通った人が何人か来ているといった参加の仕方を一部ではされているのかなというふうな印象でした。なので、まずはベースとしてはやっぱりモデル、もっと人をどう巻き込んでいくかというところの方法をいま一度考える必要があるのかなというふうに思っています。

もともと去年の今頃だったか、日本IGFタスクフォースができる前のときに、一回どういう体制で今後やっていくかという検討はペンディングにしようという話になったと思うんですけど、それはタスクフォースをつくればもっと今のこの活発化チームでは集め切れないような大きい団体とかがもしかしたら会員になってくれて、そういった新しい切り口からこの活動にもっと人、組織を呼び込めるんじゃないかという話があったんですけど、残念ながら先ほど前村さんが御報告の中でおっしゃっていた引きつけポイントみたいなのを探すのが難しくてという部分がどうしてもあったのかなと思っていて、今ぱっと案が出ないんですけど、そういったところは日本としては何でなのかというのと、どうしたらもうちょっと呼び込めるのか、そこの議論をこのチームなのか、もっと広い場でなのか、深掘りというか、分析、検討が必要なのかなというふうに個人的には思いました。

ちょっと何か広がった意見になってしまいましたが以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

前村さん、手が挙がっていますか。お願いします。

【前村】 ありがとうございます。こういう議論が、あまりマルチステークホルダーというと何かそれっぽくしただけじゃないかと思われるかもしれないんですけど、政府の方もいらっしゃって、プライベートセクターもいて、私とかは技術コミュニティでやっていってというようなことで、いろいろな方々でやれるというのは非常に重要なことだと思って、すごくありがたい議論だと思います。

まず、どこか見本になるようなナショナルIGFがあるかというのは、私も、できればもう少し深掘りしていろいろなIGFを見ていきたいなと思いながらも実際にはできていなくて、そこそこちょこちょこは見ているんですけどもというような感じです。

それで、ブラジルのモデルは、彼ら自身がNETMundialという形で売り出そうとしているぐらいにとてもよくできているモデルだと理解しています。ただ、よくでき過ぎていて我々がまねできないというようなところはあるんだと思うんです。ブラジルのインターネット調整委員会、CGI.brというところがあって、ここが半分は民間・市民社会、半分は政府の人から成る委員会として

調整委員会、CGIというのがあって、ここがきちんとお金を取ってやっているんです。なので、CGI.brだけではなくてNIC.br、いろいろなブランド名で仕事をしているんですけども、ブラジルからは毎回、IGFにしてもICANNにしてもとても大きなデリゲートを突っ込んでくるので、相当そこの体制がよくできているんだろうなというふうに思います。そういうところが、マルチステークホルダーでインターネットには市民社会からもきっちり関与していくべきだという体制がもうブラジルではできているんだろうなと思っていて、それで日本はあれをまねする、まねするということはないかもしれないんですけども、あれを目指すのかというのは相当最初の方向性としてそれでいいのか、悪いのかという議論がないと進まないのではないのかなというふうな気がします。それくらい体制がよくできているということは、皆さん、ブラジルの方々をお気づきになるぐらい本当に優れているんだというふうに思います。

それで、日本が、皆さんで一緒にIGF活動を盛り上げていきたいものですよね、そうあるべきですよねというような話をずっとやっているわけなんですけども、私としてはいろいろなナショナルレベルのIGFを見ながら、例えばドイツとかフランスとかそういうところを見ていきたいんですけども、というのはベルリンIGFであったり、パリIGFであったりというふうなもののちょっと前にナショナルIGFがちゃんとフォーメーションされているというのがドイツとフランスなんです。そういうようなところの例も見ていきたいんですけれども、個人的には一番よく動かせているのは、ナショナルじゃないんですけどもEuroDIGを参考にして、もう少しスタディしてみたいなと思っています。

そういうふうな検討や調査というのをきちんとやっていきたいものだなと思いながら、ただ、それを待っていなければこれからの日本のナショナルレベルのIGFの活動ができないというんだったら、それはそれで本末転倒なものですから、ここにいる皆さんでどういった形で工夫していくとそれがなるのかというのは考えていかなきゃいけないんだろうなというふうに思います。

それで、加藤さんから、まずはIGF、グローバル、IGF京都の報告みたいな内容のサブスタンスがもう生まれつつあるというのは非常にすばらしいことだとも思うんですけども、先ほどブラジルの例で申し上げたとおり、そこに投資ができる場合にはとても話が手っ取り早くなるというのか、いろいろなものが円滑に進み始めるというのは一つ重要な要素で、それができないから手弁当でやっていくというのは次善というのか、それはやらなきゃいけないけれども、お金は重要な要素だなと思いました。

一通り、一固まりお話ししました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

西潟さん、お願いします。

【西潟】 ありがとうございます。

最初に立石さんがおっしゃったブラジル、これは私も極めて同感なんです。というのは、私も5年以上前ですけど、OECDでAIについて関わったときに専門家会合で世界中から人を集めてやったんです、OECDの理事会勧告をつくるときに。そのとき既にNIC.brというんですか、ブラジルの人たち、そっちのほうまで存在感がバリバリにあって、「何だ、こいつらは」と思った記憶が

あって、今回ICANN、何回かこの1年の間に現地にも行かせてもらったんですけど、ブラジルの代表団は超優秀ですよ、英語もきれいだし、力が入っているというのはよく分かるし、NETMundialの話からしても思うものもちゃんとあってということなんだというのはすごいよく分かるんですけど、むしろさっきおっしゃっていただいたブラジル以外の2つの国、アルゼンチンとペルーとお聞きしたのかな、これについてちょっとまた別途お聞きしたいところがあるんですけども、ブラジルに関して言うと、私は前村さんがおっしゃったことについて極めて同感で、ちょっと不適切な言い方があったら言ってください、議事録で修正させていただきますけど、JPNICをもっとでかくしていいのかという話、あるいは総務省がもっとインターネットに国内で関与していいのかというような話とちょっとリンクするんで、多分前村さんはそういうことをおっしゃられたのかなとも思いつつ、ここまで民主導で来ているところの日本というのがそこになじまない部分というのはあるのかなと思いつつお話をお聞きしました。

むしろ前村さんからその先のいただいた中で興味深いところはヨーロッパで、ヨーロッパは、これも私の、このたった1年ですよ、たった1年の間のICANNの観察ですけど、この1年でヨーロッパのプレゼンスはすごい上がっています。今回のICANN会議はハンブルクだったから来やすかったというのもあるんですけど、ICANNはもともと基本的にハイブリッドなので、言いたいことはみんな言うんです、どの国でも。そういう意味では、前回のワシントンD.C.のときにフランスがすごい真面目に来てたしとか、ここから先もまたちょっと不適切なことがあったら言ってください、議事録のほうで修正させていただきますけど、すごいストレートに言うと、DSA（EUのデジタルサービス法）なんかが法律としてできている中で、本当にアメリカ主導できたインターネットに対して別のものを立ち上げる機運というのをすごい感じるんです、スプリンターネットとかそういうのと別のレベルで。規制のやり方も含めてだし、ブラジルとは別のやり方でより規制重視なのかもしれない、ヨーロッパの場合は、EUという大きな器もあるし。という中ですごい動きというか、今ちょっと境目なのかなというのを感じつつあったのが前回のハンブルク、先週までいた中での私の感想なんです。

そうなってくると、これは最初の話のほうに戻るんですけども、前村さんのほうからタスクフォースのほうがいわゆる呼び込みという言い方が合っているかどうか分からないけど、呼び込みのほうがいま一つ思ったとおりには進んでいらっしゃらなかったという話をいただいたんだけど、多分これを逆に昔、昔と言ってはいけませんけど、前回のIGCJとかの時代の議論に直接携わっていらっしゃった皆さんの御感想等も併せてお聞きしたいんだけども、今国連が見ているGDCの中のインターネットに関する部分の現状、悪く言えばていたらくなんだけども、これのアンチテーゼという意味では、これは多分ほかのどなたかもおっしゃったと思うんですけど、多分ブラジルにしても欧州にしても、今のインターネットにアンチテーゼがあるから活動に力が入るんだと私は理解していて、それはさっき冒頭で私が申し上げたインドの女性もそうなんだけど、逆に言うと日本ってビッグプラザーの米国に最初のアーリーアダプターでついていったから、同じ形ではこの問題意識はないんだと思うんです。むしろうまくいって、一緒に発展してきたという理解なんだけども、これが、このGDCのせいでまたおかしくなるんじゃないかみたいな話になると、じゃあ、日本も真面目に考えて物を言っていこうぜと、むしろそれはすごいステレオタイプな言い方をするとアメリカをサポートするという言い方なのかもしれない。これは日本政府は現にアメリカのDeclar

ation for the Future of the Internetをいの一番にサポートしているわけだし、そういう言い方になるのかもしれないですけども、そこの言い方はそれぞれ皆さんの中で正しく消化していただければと思うんですけど、そういうような論が立つとなると、そういったところをよりどころにして一つ新しい議論というのは、いわゆるIGFとの関わり方以外のインターネットに対する日本としての見方として、そのときにどういう形でシビルソサエティが入ってくるかとか、私も全部は今の段階で見切れているわけじゃないんですけれども、少なくとも議論としての取っかかりにはなるのかなと思って、逆に私が見ている極めて狭いオブザベーションに基づいた発言なので、せっかくの機会なんでここにいらっしゃる方から、「いや、そうじゃないよ」というのを特におっしゃっていただきたいと思います。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

立石さんも手が挙がっていますが。

【立石】 「そうじゃないよ」じゃないと思うんですけど、分からないんですけど、私の知る限り、ICANNに来ているCGI.brの関係の方とかアルゼンチンの方と、今回ちょっと行けなかったんであれなんですけど、何で南米がという部分は、最初からインターネットをやっていた方がかなりずっと長期間関わっていらっしゃったということと、それと、これは何年前だったかな、かなり前なんですけど、そもそも日本のIXの、IXのでき方自体に私はちょっと、IXの在り方か、ずっと疑問、日本の場合はちょっとイレギュラーかなと思っているんですけど、ブラジルにしろ、アルゼンチンにしろ、例えば南アフリカなんかでは割とちゃんと、ノルウェーだったかな、フィンランドとかしてもちゃんと割と分散されているんです。その話が出たときに、たしかブラジルとアルゼンチンの方だったと思うんですけど、当然インターネット黎明期の頃はアメリカからしか接続できなかったので、アメリカまでの中継回線をアホのようにお金払っていましたと。アルゼンチンとブラジルがデータ通信するのに、当然アメリカまでの往復ビンタのお金を払っているわけです。それで、相互接続ポイントを南米に造れば格安になるわけで、その辺のことをずっと分かっている方が今ぼちぼち外れられて、お見かけしなくなった方もいらっしゃるんですけど、数年前まではその辺の方がずっといらっしゃって、そういう人たちが引っ張ってきたように思います。

インターネットはみんなのものなんだからという考えで始めた方たちがずっと残っていて、かつそれをやっぱり言ってくると、どこかにお任せしておくというわけにはいかんよなと、特に政府なんて、どこの政府とは言わないですけど、「インターネットなんて使わない、誰が使うんだ」みたいに言っていたようなところが、そんなところに突然手を挙げて規制が始まるようなところもいるわけなので、そういうふうにはやっちゃ駄目だということに対する反省というか予備的なものなのかちょっと分からないんですけど、そういう思いがすごく強かったように私の場合は見えました。

日本の場合は、そこはもうちょっと検証しなきゃいけないと思いつつ、まだ私自身ができてないんですけど、ある日突然インターネットが急速に広まり過ぎちゃったと思うんですよね、90年代の後半、終わりあたりから。赤い箱を配っていた会社の人たちもいるかもしれませんけど、あれでよくも悪くも急速に広まってしまって、インターネットに接続することによる恩恵がどれだけあるのかと、それをするためにどれだけコスト削減して自分たちがアフォーダブルな値段で使う

ためにはどういうことをしなきゃいけないかというのを知っている方があまりいないというのも、国民性もあるとは思うんですけど、インターネットに関するシビルソサエティが育たなかった理由かなと。

例の漫画村のときなんかは、消費者団体の方たちとはもう本当に阿吽の呼吸ですぐに声明を出せたりしたんです、共同だったりとか、いろいろ。それはやっぱり戦争の反省ということをずっと思っていらっしゃる方が今向こうにもいらっしゃって、我々のほうにも結構まだまだいらっしゃったので、何だか細かい説明なんかしなくても「それはまずいよね」という話をすぐできたと、何かそういう部分の違いなのかなというふうに私は思っています。

それと、さっき西潟さんがJPNICが肥大化するとおっしゃっていたんですけど、そこは肥大化というか、肥大化の仕方だろうと思うんですけど、加藤さんがおっしゃっている別の団体をつくるということに、そういうやり方をすれば、そこはCGI.brと全く組織形態までは一緒にやることはなくて、何だろうな、アウトリーチの仕方とかそういうのはもうちょっと勉強したいなというふうに私は思っているので、その辺かなと。その一つの試みとしてSIGということをやってみて、若い人たちを引っ張り込めるのかどうかも含めて、テストじゃないんですけども、やるしかないというふうな感じで思っています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

前村さん、また手を挙げていただいたと思いますが。

【前村】 オールドハンドで失礼しました。

【加藤】 オールドハンドですか。

ありがとうございます。

ほかに御意見ありますか。

今まで伺ったところでは、高松さんが最初に言われた、どうやってみんなのモチベーションを上げて人々を巻き込むかと、これは永遠の課題が一つ。

それから、田中さんとか高松さんも言われた費用をきちんと予算化して、ボランティアだけでやっていくのは結構大変で、その辺もめどをつけたいと、これもやっぱり長年の課題。

それから、西潟さんからお話があって皆さんの議論になっている、何か我々が着目していくイシューがあるのかどうか、立ち位置を考えていく、そういう意味でいろいろ【聴取不能】とかいろいろなきっかけがあれば、そこで立場が明確になって何か飛躍があるかもしれない、これもすごく重要なことだと思いますけれども、この3つ、いずれも私がさっき8項目を書かせていただいた形をこうやって考えていこうという方向性とそんなに大きく矛盾することではなくて、その中でどうやっていくかと。例えば費用について、私はまず、現実的になかなか難しいので、取りあえずできる範囲の予算の中でやってスタートしていこうと考えたわけですけれども、今後の活動として例えば2か月に1回、こういう事務的な会議だけではなくてもう少しサブスタンスのある会議をやって、いろいろな人に声をかけていくことによって中身もやるということであれば、もう少し何か方

向性が見えてくるかもしれないという、そういう意味で、全体として2023年のIGFを活発化するというよりは、日本のIGF活動をもう一回活発化するためにやってみようという、そういう趣旨のつもりなんです。

もしこの8項目の方向性に、取りあえずそういう方向で検討しようということを皆さんにこの場で御賛同いただければ、中身について、具体的な案についてはまだまだこれからいろいろな御意見があると思いますが、この活発化チームの今後に関して継続検討ということでお願いできないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

この8項目について、これは違うと、例えば費用については最小限じゃなくて、もう最初からかなりの金額の予算を考えると、それができないならやめろとか、それも一つの考えなんですけれども、実際ここで立ち止まってしまうと、タスクフォースもそうですけれども、また何もできない状態に戻ってしまうというのは、私は少し残念で、ぜひ1項目にあるとおり京都の盛り上がりをとにかく引き継いで仕組みとして続けていきたい、そういう趣旨でございます。

西潟さん、お願いします。

【西潟】 大分時間もあれなので御示唆をいただきたいのは、役人なので申し訳ないんですけど、細かいことでいろいろ気になる言葉があるんですけど、そういうのというのはどういう形でコメントを差し上げれば、今、幾つか簡単には申し上げられる、ただ全てじゃないという前提なんですけども……。

【加藤】 そういう意味で、山崎さん、このルールとして、これに私もさっき書き込みましたので、できればそこに書き込んでいただいて、もしプライベートにいただくということであれば、それで私が考え直して少し直してもう一回提案するということでもいいですけれども、もし皆さんの前で問題なければこれに書き込んでいただければと思います。

【西潟】 このGoogleドキュメントのリンクを共有いただけるということでいいんですか。

【加藤】 そういうことです。それに書き込んでいただければ。

【西潟】 それが今日の会合後、一定の期間をもってそういうような期間があってというような形で進められるというお考えということですか。

【加藤】 おっしゃるとおりです。

【西潟】 そういうことであれば、そこでやらせていただければと思います。ありがとうございます。

【加藤】 前村さん、お願いします。

【前村】 前村です。

この1から8までの私案としてまとめていただいたものに関して、全体的に非常にリーズナブルで、こういったところをベースにしてやっていくというようなことはとても重要だろうなと思います。

タスクフォースとして立ち上げたものを切り盛りしようとしていたという立場から言うと、必要な人々にちゃんと関与していただくというのはとても重要で、この場だと、例えばWIDEプロジェクトの皆さんが、今この状態でどなたかWIDEプロジェクトだと言っていい方がいらっしゃるかというと、いらっしゃらないような気がしますとか、最初に必要な人がちゃんと集ってというのか、そういう必要な人々が最初から議論に入れるというのはとても大事なのかなと。一方で難しいことでもあるんですが、その辺を工夫しながら進めていければなというふうに思います。

以上です。

【加藤】 ここにいらっしゃる方々でWIDEプロジェクトに半分足を突っ込んでいらっしゃる方もいらっしゃるかもしれないですけれども、ぜひいろいろな方に声をかけていただいて、コメントをいただければと思います。

山崎さんが今書いていただいたIGF-Japanの追記も賛成ですので、私自身はそれを今この場で追加していただいてもいいと思います。すみません、これは直前にいろいろ考えながら書いたので、西潟様のお話じゃないですけどもかなり細かい部分でも修正いただくべきことが多いと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

前村さん、そういう意味でWIDEの方や、気がつく方がいらっしゃれば、少なくともタスクフォースのメンバーにもこのまま出していただくのは全く問題ないと思いますので、ぜひお願いいたします。

【前村】 加藤さんには活発化チームのチェアとして、タスクフォースのほうのメンバーでもいらっしゃるんで、すみません、恐縮ですけども一緒にタスクフォースの話……。

【加藤】 そこでのコメントにも参加させていただきます。

【前村】 そう思いますので、どうぞよろしくお願いします。

【加藤】 メンバーである立石さんからまた手が挙がったので、よろしくお願いします。

【立石】 私、マルチステークホルダーモデルというのが実際どうあるべきかみたいな話を、実は大学院で教えている学生から逆に教えられたことがあって、よく言われるのは、こういうオープンにしておけばいいのかみたいな話と、さっきちょうど前村さんが声をかけるべき人という話、団体だと思うんですけども、そうなると、声をかけるべきというのは誰かという話に多分なると思うんですよ。現状、既に関わっている方はもちろんそれなんですけど、じゃあ、関わってないところをどこまでやるかという話もあったりとかして、市民社会と言われるところはどこまでなのかとか、何かそこも議論しなきゃいけないような気がしています。すみません、これは私が何か解答を持っているわけではなくて単なるあれなんですけど、ちょっと問題意識としてそういうのがあるということだけを申し上げたかったので、以上です。

【前村】 御指摘ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ぜひ、ここにあるこの4つ、今書いていただきましたが、こういうところには少なくとも「こういう方向で検討したいけど、どうだ」という声をかけていくべきだと思いますので、皆さんのそれぞれ関係すると思われるところに、ぜひよろしくお願いします。

【西潟】 西潟です。

でも、そういう意味では、今の立石さんのコメントからすると、マルチステークホルダーという言葉が正しい意味でここで使っていないから、この文章は正しいですよね。

【加藤】 それは大前提で、ただ定義はなかなか書きにくいんで書いてないですけれども、マルチステークホルダーの前提であることは間違いないです。誰もが自由に参加し、発言し、活動すると、活動を公開するというのは、もうそういうことを前提に、そういうことを期待しながら書いているつもりですけれども。

【前村】 いや、マルチステークホルダーだという言葉を使わないというのは正しいと思いますね。

【加藤】 京都で何回聞いたか分からないですけどね。

【前村】 そうですね。ちょっと手あかがついている感じがしてくるので、いや、本当にマルチステークホルダーという言葉で表現したいのはこういうことなんだということのほうを書いたほうが正しくなるような気が、どうも最近しております。

【西潟】 賛成です。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、山崎さん、少なくとも7日間ですか、コメント期間を入れて、そのコメントをベースにまた7日間見ていただいて、ラフコンセンサス、この中身自身はまだまだ具体化する上で変更可能な内容ですから、そういう前提でこれをもう一度皆さんに検討していただくということで今日は議事録をつくっていただいて、皆さんにコメントいただいて、WIDEさんを含めていろいろな方にも声をかけていただいて御検討いただくと、コメントいただくということでいかがでしょうか。

【立石】 異議なし。

【前村】 よいと思います。

【加藤】 もう19時になりましたので、それでは、そういう方向で今日は進めさせていただくということで、これで今日のアジェンダ項目は終わりだと思いますが、To doとしてはコメントをつけていただく、いろいろな方にも声をかけていただく、ここに山崎さんに書いていただいたとおりです。

次回ですけれども、4週間後でいいんでしたっけ。

【山崎】 はい、4週間後……。

【加藤】 11月27日月曜日、夕方5時ですね。

【山崎】 はい。

【加藤】 4週間後ということで、27日の開催ということでよろしいでしょうか。ぜひそれまでに、非常に重要なことが出てきていますので、メールベースでいろいろ書き込みいただくなり、お願いできればと思います。

【山崎】 高松さんが手を挙げていらっしゃいます。

【加藤】 失礼しました。高松さん、お願いします。

【高松】 念のため、これから先ほどの8ポイントのところについては皆さんから意見がまたいろいろ出てきて、次回議論の続きをするという話と、あとは、IGFの報告会みたいなものをどうしようというのも次回から議論がスタート、というか調整がもう来年になる……。

【加藤】 今日、次回があれですけれども、時間的に今年中は結構厳しくないですかね、皆さん、どうですか。

【高松】 そう思って……。

【加藤】 私もさっきからそれを気にはしていたんですが。

【山崎】 山崎ですけども、よろしいですか。

【加藤】 はい。

【山崎】 確かに厳しいんですが、来年になってしまうと、今年はいつもより1か月半以上早いじゃないですか、IGFの開催が。

【加藤】 ああ、間が空くということですか。

【山崎】 間が空いて、より気が抜けてしまうので、何とか年内にやったほうがいいのではないかと思うと、11月末に検討を始めたのでは間に合いませんので、今から始めないと間に合わないと思うんですよ。

それで、もうここの会議の時間をこれ以上使うのはちょっと無理だと思いますので、取りあえず事前会合、日本インターネットガバナンスフォーラム2023のプログラム委員のメンバーの皆さんでちょっと走り始めて、もちろんメンバー追加の公募はしますので、なりたい方は自由になっていただいて、それで、あまり時間がたって気が抜けないうちに何とか報告会を開催できればと思っているんですけど、いかがでしょうか。

【加藤】 私は賛成で、もしそれができるのであればメールベースで、あと、前に6人のプログラム委員がありましたけれども追加の方はぜひ手を挙げていただいて、年内か、本当に1月早々ですね、開催の方向でやるということで。その場合に、ちょっと時間がもう押してあれですけども、イメージとして、京都でやっていただいたことの中で、日本の方が京都でやっていただいたことを中心に報告会をやるということでよろしいでしょうか。

【立石】 はい。

【前村】 そうですね。

【加藤】 今までも、大体報告会というのは参加された方が「どうでした」という感想を述べるセッションとかがあったと思うんですが、前回の日本IGFの9月の会議では、6つのセッションについて「こんなことをやります」ということ言っていただいたんですが、今回はそれ以外のものもあったと思いますので、そういう方にも声をかけて、繰り返しにならないように、特にそういう方から主に報告していただきながら全体の感想とか、そういう会にするというイメージでいかがでしょうか。

【立石】 賛成です。

【加藤】 山崎さん、もう一度お願いします。

【山崎】 すみません、下ろし忘れていました。

【加藤】 オールドハンドですね、分かりました。

では、そういう方向で、山崎さんが御提案のとおりこの6人でプログラム委員会のミーティングをやるということで、今日の議事録として、プログラム委員会にさらにボランティアとして追加で参加いただける方は手を挙げていただくということも今日の議事の内容とさせていただければと思います。それでよろしいでしょうか。

そこから日程の提案等もいただいて、少なくとも次回の11月27日には主なことを決めるというスケジュールにしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、今日も長時間にわたって大変ありがとうございました。次回は11月27日月曜日ということで、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。